

平成26年

美里町産業活性化戦略会議 会議録

第2回 8月25日

美里町産業振興課

美里町産業活性化戦略会議（第2回）

会議年月日	平成26年8月25日（月）
会議の場所	役場本庁舎 3階大会議室
開会時間	午後6時00分
閉会時間	午後7時30分
出席者	<p>委員</p> <p>栗野敏夫 尾崎 勝</p> <p>渡部憲明 渡邊新美</p> <p>武田正晴 直枝朝子</p> <p>佐々木幸子 菅原 都</p> <p>三神 新 新田耕一</p> <p>オブザーバー</p> <p>山内一也</p>
欠席者	<p>委員 涌井良宣</p> <p>アドバイザー 高力美由紀 菊地 郁</p>
職務上の出席者	<p>町長 相澤清一</p> <p>副町長 佐々木 守</p> <p>産業振興課長 大友義孝</p> <p>産業振興課商工観光室係長 阿部伸二</p> <p>産業振興課主査 川名秀明</p> <p>産業振興課主査 木村 敏</p>
会議案件	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 町長あいさつ 3 道の駅について 4 産業活性化施設を核とした産業活性化について 5 意見交換 6 その他 7 閉会

司会：川名主査	1 開会 午後6時
相澤町長	<p>町長あいさつ要旨</p> <p>第2回目の産業活性化戦略会議にあたりあいさつを申し上げます。</p> <p>本町の稲作も順調に生育してきており安堵している。また、西日本では局地的な大雨により大きな災害となっている。亡くなられた方々にはご冥福を祈るとともにお見舞いを申し上げます。</p> <p>先月、第1回目の会議を開催させていただいた。本日は第2回目ということで、私の考えをお示ししながら、前回以上の皆様からの意見をいただきたいと思う。</p> <p>活性化施設を作り上げるという作業は、町の活力を引き出すツールであると考えている。農業を元気づける、企業を元気づける、ひいては町を、人（町民）を元気づける方策を練って行けば、おのずと形は見えてくると思う。皆さまからさまざまなご提言をいただきながら、しっかりとした町の活性化のための形づくりをしていきたいと思うので、忌憚ない意見をどうぞよろしくお願い致します。</p>
司会：川名主査	それでは次第に沿って進めて参ります。なお、これより渡邊座長に会議を進めていただきます。
座長：渡邊委員	3の道の駅の概要及び4の産業活性化施設を核とした産業活性化について、大友課長より説明をお願いします。
大友課長	<p>説明に入る前に、会議録の調整について説明。</p> <p>その後、3. 道の駅について、および4. 産業活性化施設を核とした産業活性化について、資料をもとに説明。</p>
座長：渡邊委員	<p>5. 意見交換に入ります。</p> <p>委員からの意見をお願いします。</p>
直枝委員	道の駅ありきで話を進めていくのですか。
相澤町長	<p>「道の駅」ありきという話ではない。</p> <p>産業活性化についての資料9ページのイメージ図にある「活性化施設」、「道の駅」、「憩・体験の場」の3つを連携、組み合わせながら全体の絵を描き、にぎわいを出していきたい。委員皆さんのアイデア、意見をお願いしたい。</p>
直枝委員	現在農業をやっているが、将来を考えると個人の農業では限界を感じる。企業体などの組織で若い人が多く集まる農業を展開できないものかと考えている。
佐々木委員	<p>個人の農業は後継者不足もあり限界。将来を考えれば、法人化、企業体など、後に継承できるような仕組みを作るのが大切。町長もおっしゃったように産業活性化＝農業の活性化が必須という考えには賛成である。企業誘致などで外から持ってくるより、今ある産業（農業）を活性化する方法がいいと思う。</p> <p>いいものを作ろうとしたときには、研修の場が必要。私は大崎市の雇</p>

	<p>用創造協議会の研修を経験したが、大変役立っている。</p> <p>前回、町の現状の話聞いたが、町として10年後20年後の予測をぜひ立てていただきたい。</p>
菅原委員	<p>農業者の立場で言うと、活性化施設として交流館とか物産館を作ってほしい。そこで町の農産物（野菜、米、米粉）、加工品を発信してもらいたい。また、そういった商品の中から厳選して美里ブランドを立ち上げるのもいいのでは。美里ブランドの商品については、加工場を見学させたり、実際に調理室で作ってもらうのもいいと思う。私は個人的に活性化施設としての「道の駅」の建設には賛成である。</p>
三神委員	<p>現在町では、さまざまなイベントを実施しているが、それぞれの組織がつながりをもって情報共有できればいいと思う。イベントをやっている団体だけではなく、全体のイベントなんだよと共有できるような仕組みづくりができないものか。また、農産物加工品についても、生産者の横のつながりをもって町の特産品にするんだという気持ちをもっともてるようにすればいいのでは。そういった交流機能や情報発信機能を道の駅が担い、町民へのサービス機関、窓口として展開できればいいのでは。</p>
新田委員	<p>地元の小麦を使った手打ちうどんなどを作って食べられる体験コーナーの区画やもち米（みやこがね）も多く作っているの、餅のコーナー（特にずんだ餅）もいいのでは。</p> <p>太陽光発電という話は前回でたが、オランダ風車のような風力発電も面白いのでは。そのような場所で休んでもらい、体験していただき、買い物もしてもらおう。そして年に定期的に観光大使の演奏を観ることができたら憩いの場としていいのではと考える。</p>
武田委員	<p>美里町といえば面積の64%を占める田んぼということだが、今、企業でやっているのは植物工場のような取り組みである。</p> <p>美里町はいい素材がいっぱいあるので、それらを有効に活用できればいいと思う。また、農業だけだと先行きが不透明なので、道の駅なり活性化施設を活用し、長い目で技術の伝承だったり人づくりだったり、活性化が出来ればいいのでは。</p>
渡部委員	<p>3つの連携イメージがうまく融合できればいいと思うが、切り口をちょっと変えて直売所であれば、「未来の直売所の在り方」を調査研究している方々がおりますし、活性化施設であれば、専門に調査している団体等の調査などを調べることもできます。要は私たちの意見プラス専門家のアドバイスをに入れていったらどうかということです。</p> <p>リーダーになれる人を作れる場というのが理想。</p> <p>大企業とうまく連携するのもひとつ。たとえば、ビールのCMに地元の農産物を使ってうまくPRしていた地域もあるが、電通とか博</p>

	<p>報堂などを使い外から美里町を見てもらい、いいものを発信できたらいいと思う。</p> <p>アドバイザーに大学の先生に入っているが、普及センターや振興事務所の職員をオブザーバーに追加するのもいいのでは。</p>
尾崎委員	<p>少子高齢化社会ということで、高齢者が働ける場所を作るべきと考える。栽培・加工については高齢者にどんどんやってもらい、販売は若い人にどんどんやってもらうような形がいいのでは。</p> <p>いろいろな道の駅などを見ているが、地域の地場産品を使ったものが成功している。美里町内にも埋もれているいいものがあるはずなので、それをベースにしていくのが必要。</p> <p>また、これからは健康ブームなので、健康に配慮したものの考え方がいいと感じます。</p>
栗野委員	<p>温泉があったらいいと思う。また、自分の経験であるが、地元に戻ってきて加工品を作るときに研修の場として、大崎市雇用創造協議会主催のセミナーでお世話になった経験がある。美里町にはなかった。美里町にも研修の場というのは必須と感じる。また、加工場もなく困った経験がある。加工場も専門的な機材がそろっているものが理想である。</p> <p>専門的な機材を持っている業者とのマッチングをしていただく人や機関があれば、商品開発もスムーズになる。農商工連携のひとつにもなると思う。そういった場所や人が活性化施設に求められる。活性化施設を中心に、セミナーや商品開発がされ、常に若い人（地元の高校生も含む）がかかわり、農商工連携がとれるようなイメージがいいと思う。</p>
山内オブザーバー	<p>道の駅をベースとした活性化施設でいいと思う。農産物を売るだけでなく、その場所を LABO（ラボ）みたいなイメージで活用する。加工場を参加型にし、そこでお客さんにやってもらう、見てもらうのがいい。</p> <p>生産者も消費者も巻き込み、新しい美里ブランド商品を作っていく。</p> <p>今注目を浴びている野菜工場もいいと思う。野菜工場で作った物をそのままサラダなどの料理としてその場で提供したりするのもおもしろい。LABO（ラボ）には渡辺採種場などの企業や農協、地元の高校にも参加してもらい、あたらしい作物をつくったり、学習したりする場になればいい。</p> <p>LABO（ラボ）の燃料には、太陽光はもちろんバイオ燃料の活用なども環境上いいと思う。</p>
渡邊委員：座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>人が集まり、儲かってもらいたい。絆、接客、対面商売がだいじで</p>

	<p>ある。</p> <p>いただいた意見をもとに、3回目の会議につなげて参ります。</p>
相澤町長	<p>3つのコンセプトを中心にそれぞれが補完し合いながら相乗効果を生むイメージで話をしてきたが、今後はそれぞれのコンセプトに具体的に何が必要か、どういった施設がいいのかを話し合いたい。委員さんの意見を3つの柱にどんどん肉付けしながら具体的な方向性を出したいと思うのでよろしくお願ひしたい。なお、前回同様職員が委員さんのもとへ伺いますので、お話を聞かせていただきたい。</p>
渡部委員	<p>お願ひになりますが、先ほど栗野委員さんから話があった件のように、フリーズドライにする機械をもっている業者などは結構いる。県の人間がタイアップして使用しながら商品開発している例もある。(農商工連携の中でラフランスを粉にするなど)</p> <p>アグリビジネスフェアなどに事務局が足を運んでどんどん情報提供してほしい。事前のお金、労力はかかるかもしれないが、出来てからの変更よりはいいと思う。事務局にはどんどん歩いてもらい、外から美里町をみてほしいと思う。</p>
相澤町長	<p>宮城大学にもさまざまなノウハウがあるので、うまく連携して取り組んでいきたい。</p>
佐々木副町長	<p>職員が自ら情報を取ってくるというのはすごく重要。</p> <p>農業も個人経営は限界で、法人化の流れである。</p> <p>町の目玉商品がないと、いくら施設を作っても駄目だと感じる。</p> <p>町の地場産品で目玉商品を作る。北浦なしで加工品づくりに取り組んでいるのはいいことだ。</p> <p>契約栽培に取り組んでいる人が既におり、そういった実践している人から意見をもらうのも大事。</p> <p>目玉商品の柱を何本かたてるのが重要。何にするのか作物を決めて、企業の力を借りながら商品開発を進めるべき。</p>
渡邊委員：座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>これで意見交換を終了し、事務局に移します。</p>
司会：川名主査	<p>その他なにかありますでしょうか。</p>
委員全員	<p>特になし</p>
司会：川名主査	<p>特になければ、閉会のあいさつを佐々木副町長が行います。</p>
佐々木副町長	<p>閉会のあいさつ</p>
司会：川名主査	<p>8 閉会宣言 午後7時30分</p>

会議の経過を記載して、相違ないことを証するためここに署名する。

平成26年8月 日

美里町産業活性化戦略会議 座 長 -----